

組織拡大・各選挙の闘いなど意思統一

◆両支部で地区協・分会代表者会議開催◆



発行所 国鉄労働組合 盛岡地方本部
発行者 佐々木 力
編集者 及川 孝
TEL 019-622-5021
メールアドレス numori@poem.ocn.ne.jp

2016.2.10
第1490号

拡大キャッチコピー
「新しい仲間づくりを皆の力で」
「一緒に解消しませんか、あなたの疑問。加入ってます」

当面の主な日程
▽2月14日(盛岡) 第126回拡大地方委員会
▽2月20日(盛岡) 盛岡支部側「交通共済担当者会議」
▽2月21日(青森)

青森支部側「交通共済担当者会議」
▽2月26日(盛岡) 盛岡地方運輸協議会3分科会交流会
▽3月4日(仙台) 国労東北協議会総決起集会

2016年の闘いのスタートを切つて、青森・盛岡両支部はそれぞれ「地区協・分会代表者会議」を開催した。両支部とも、組織の強化・拡大に向けた運動の取り組みについて強調したほか、北海道新幹線開業に向けた職場の問題や選挙闘争をはじめとする政治の課題など、国労が抱える諸課題の解決や運動の前進に向け議論を重ねた。

両支部の会議には、東日本本部から菊池忠志委員長(青森支部会議)、佐藤正幸書記長(盛岡支部会議)が参加し、①政治的課題②組織強化・拡大③安全安定輸送、労働条件改善④2016春闘についてオルグを行った。地方本部から両支部の会議に、佐々木委員長・沢田書記長・及川教宣部長が参加し、盛岡支部に菊池組織部長も参加した。

東日本内の現状・取り組み報告

「東日本本部」委員長・書記長

青森支部の会議は1月10日、10時から青森市・労働福祉会館で開催され、30人が参加した。座長に就任した阿部一久委員長が「北海道新幹線開業に向け、職場の廃止・乗務員の削減、エルダー職場の労働条件改善など問題が山積している。3月に予定している支部組織対策会議に向けて、情報の共有と取り組みの強化を図りたい」と挨拶。

次に東日本本部の菊池委員長が、「北海道新幹線開業に伴う問題も地方とエリアが連携を図りながら対応したい。戦争法廃止に向けた2000



＝青森支部の代表者会議で組織拡大などの取り組みを訴える菊池東日本本部委員長＝



＝盛岡支部の代表者会議は、佐藤都久雄副委員長の開会挨拶で始まった＝

0万署名に共闘の仲間と共に取り組み、参議院選挙勝利に向け地方から運動を強化してほしい」とし、組織拡大については「一括和解以降、200人を超える仲間が国労に加わってきた。機関として、組織拡大に取り組みの決意を固め合うことが重要である」と訴えた。続いて田崎秋弘書記長が、①組織拡大について②北海道新幹線開業対策について③参議院選挙闘争についてなどの支部提起を受け全体討論を行った。

機関代表からは、「出向先の通勤の便が悪く、代行タクシーを使用している。更衣時間もなく、組合の必要性を訴えていく」「他労組の平成採用者に加え、ボウリングと懇親会を行った。今後も継続しつなかりをつくらせていく」「世代交代の歪み中、若手社員が超勤やサービス残業が多い。会社で開催する飲み会に国労の参加者が少ない。一緒に参加し交流することも必要」などの報告がされた。北

海道新幹線開業については、「ダイヤ改正後、駅業務が見直され要員が減になる。解明要求を整理し申し入れたい」「青森車両センター廃止の提案を受けたが、うわさ話も多く職場が混乱している」「希望調査をしているが、再雇用先の具体的な情報が多い」など発言があった。

一方、盛岡支部の会議は翌11日、10時から盛岡市・リ

オで開催され39人が参加した。座長に就任した佐々木研司委員長が、「組織拡大で経験したことから何を学び、どう取り組んでいくかが求められる。本日の会議から3月のオルグに向け運動をつなげていきたい」と挨拶。続いて東日本本部の佐藤書記長がオルグを行い、菅原高明書記長が支部提起を行った。

機関代表からは、「昨年の拡大から流れが止まり残念な結果となったが、分会で何が足りなかったのか」を議論して次につなげたい」「組織拡大についての学習と平成組合員の激励を兼ね、北上工務分会と交流会を計画している」「北上市議選の『星あつ子』必勝に向け、取り組みの強化が必要」など発言があった。

機関代表者は、それぞれが抱える問題を職場・分会に持ち帰り報告し、次の会議につなげながら全体の運動につなげよう。

現状と取り組みを提起する菊池地本組織部長

地方本部は1月23日、今春の新規採用者対策を意思統一にむけ「2016年度新規採用者対策会議」を盛岡市・国労会館にて開催。各級機関の組織部長・教宣部長を中心に43人が結集し、活発な議論が行われた。

主催者を代表し佐々木力委員長が「1月10日、11日と両支部で分会・地区協代表者会議を開催してきた。もう一人の仲間作りに全力をあげよう」と挨拶。続いて東日本本部・武田幸喜組織部長が情勢について報告。その中では、「一括和解以降の変化の中で8年連続直加入。しかし、情勢について自信を持って、他労組と違うからこそ国労を選

択し拡大しているのを見えない状況もある。こうした後ろ向きの気分を払拭するには全組合員での交流しかない。組織拡大について役員・個人の取り組みから組織全体の取り組みへとするために、全分会集会の開催を」と訴えた。

その後、地方本部組織部長並びに教宣部長からの提起を受けて全体討論へ。「昨春は分会独自のポスターを作成しアピール」「配属時は未加入という状況。仕事を通しながら国労の姿勢を見せることで関わりを強めていきたい」との報告の一方で、「分会だけの対応は難しい。支部・地本が一体となった取り組みを」との要望も出された。

会議は、沢田光広書記長による「1月10・11日の各支部の会議で確認した行動を具体化する意味で、各分会は行動目標を決める。地方本部は支部と連携を強める中で全分会オルグを展開する」とのまとめを確認し、終了した。

国労を巡る情勢については大きく変化している。そのことに私たちは自信と確信を持ち、さらなる一歩前への取り組みが求められている。今春の配属に向け、全分会が取り組みを確実に実行しよう。

2016年も1か月余りが過ぎ去った。国労盛岡も通常盤に戻り、今月から「ていこう」筆者一同、魅力ある機関紙作成に取り組み決意を込めて執筆したい。さて、青森・盛岡両支部は10日・11日にそれぞれ躍進旗開きを開催した。この1年、国労が抱える課題の解決に向け各機関の決意も表明され運動も本格化動される。両支部とも旗開きの前段で開催された「地区協・分会代表者会議」では、組織強化・拡大に向けての取り組みが提起された。それを受け、創意工夫し苦勞しながら前向きな取り組み報告をされる分会、なかなか取り組みが進まずどうしても後ろ向きな報告になってしまう分会もある。どうしても「できない」報告はしやすいと思うが、今後は「何ができるのか」「これだけはやってみよう」ということを議論してほしい

新規採用者対策会議

一歩前への取り組みを全分会で進めて行こう

ていこう

星あつこ4度目当選にむけ 組合員・家族の皆の支援を

北上市議会議員選挙(定数26)が3月20日(日)告示、



同月27日(日) 投票票で施行される。同選挙には組織内候補の星あつこさん(57歳)が社会民主党公認で4期連続の議席を目指し立候補を予定している。

星さんは、「ひとりひとりが大切にされる社会」と「生きやすいまち」の実現に向け

ともに歩みを進めようと訴え運動を展開している。

選挙は北上地区協の組合員が中心の闘いとなるが、星さんの当選に向けた取り組みを全組合員で支援していこう。

なお、友人・知人の紹介などは北上地区協議会へ。

北上市議選挙 3月20日告示・27日投票

プロフィール
・1958年生まれ
・黒沢尻南高校卒(器楽部)
・杉野服飾大学短期大学卒業
・2004年北上市議初当選から連続3期当選
(議会)
・教育民生常任委員会委員長
・岩手中部水道企業団議員
・広聴広報特別委員会委員
・議会改革推進会議委員
(社民党)
北上支部幹事長
(家族)
夫/母/長男/長女/愛犬
2匹

【北上地区協 FAX】
0197-63-4174

成70周年に各職場からうれしい便りが届くよう、組織拡大に全力で取り組みたい(孝)

大会 第186回中央委員

春闘・組織拡大・平和の闘いに

組織が結集し全力をあげよう

1月30日、第186回拡大中央委員会が東京新橋の交通ビルで開催された。

委員会は、佐々木副委員長の開会挨拶後、昨年11月24日東北本線白河駅構内保守基地



=委員会は交通ビルB1F会議室で開かれた=

線で、バラスト・レギュレーター点検中に本体との間に頭部と胸をはさまれ受傷死亡した、パトナー会社に出向中の組合員に対し哀悼の意を込め全員で黙祷し、議長に東京

で強行採決し、民意を無視した独裁的政権運営を行っている。戦争法と原発再稼働・原発の海外輸出と労働法制改悪TTP参加など「悪政」を断ち切るために組織された労働者が先頭に立ち、反自民の国民的運動構築が求められている。春闘では賃金の大幅引き上げを勝ち取り、雇用の確保と労働条件の向上、平和で安心して暮らせる社会づくりや生活向上に向け働く者が総決起しなければならぬ」と述べると共に、「ツアールバス事故など、連鎖する事故で運送業界全体に広がる『安心・安全』が揺らぐ原因・背景を分析して規制緩和問題、労働法制改悪が正しいのか検証しな

ければならない。経営側に対して安全が最優先であること訴え、職場に於いて安全に対する問題意識を持って安全総点検運動を展開、働き方や労働環境の改善を図りながら組織強化・拡大に全組合員が総力をあげ行動するよう要請する」と挨拶。

その後、星野執行委員から「JR貨物会社」「ソフトバンクテレコム」との労働協約締結など協約・協定の報告と承認、唐澤書記長から「当面する闘争方針案」が提案され午前の部は終了した。

昼食を挟み再開し各委員からは、安全・安定輸送確立、組織拡大の報告、パトナー会社の組織化と交流の取り組みや春闘統一要求づくり、ストライキ戦術のあり方などに関する発言がなされた。

唐澤書記長は、「JR各社の格差があることは事実。底上げを図るためにも2016春闘は統一要求を掲げ、職場・地域の連帯で闘う。スト戦術に関しては中央戦術委員会が協議し決定。組織強

化・拡大、関連会社プロパティの組織化に向けては、各エリア・地方本部と連携し運動の展開を図ることとし、全国統一行動に全力をあげる。地方交通線の維持・存続と『安全・安定輸送の確立』『平和と民主主義を守る闘い』など諸課題解決・諸要求獲得の闘いに全組織が結集し全力をあげる」と集約、最後に坂口委員長の音頭で団結ガンパローを三唱し終了した。

両支部で2016 団結・躍進旗開き

1月10日青森支部
=青森労働福祉会館=
(80人参加)



主催者・来賓の方からの挨拶を終わり乾杯で祝宴へ・写真上/
最後は恒例の全員での国鉄労働組合歌・写真右

1月11日盛岡支部
=リリオ・盛岡市=
(70人参加)



佐々木委員長の挨拶から始まり祝宴へ・写真上/
時間が経つにつれてアルコールが進んでいく組合員・写真右

実効性のある交通政策を求めていく

第25回岩手県交運労協定期総会



「挨拶に立つ新役員、挨拶は柴谷正孝議長」

岩手県交通運輸産業労働組合協議会は12月15日、盛岡市・エスポワールいわてに於いて、「第25回定期総会」を役員・代議員など40人(国労5人)の参加者で盛会裏に開催した。

総会は工藤賢樹副議長(私鉄総連)の開会あいさつで始められ、総会議長に佐々木研司代議員(国労)を選出し進められた。幹事会を代表して柴谷正孝議長(運輸労連)は、現在の安倍政権の暴走に危機感を述べるとともに「交運労

協が発足して20数年が経過して運動の継承、役員の人材育成など取り組むべき課題も多岐にわたる。そのような状況から、現在の幹事会議論の活性化と体制を強化する目的で役員数の増強を図るとともに、各組織にお願いしてきた幹事会参加のための交通費などは今後県交運で支給することとするので、会費の値上げにご理解をお願いする。最後に来年夏の参議院選挙に各組織が推す候補の必勝に向けた取り組みに奮闘しよう」とあいさつした。

来賓の東北運輸局岩手支局・藤原博之支局長、連合岩手・豊巻浩也会長、東北交運労協・小野武司副議長から激励のあいさつを受け議事に入り、石崎武則事務局長(JR総連)が2014年度活動報告・決算報告を行い代議員全体の拍手で承認、続けて2015年度活動方針・予算案が提起され、拍手で承認された。次に役員選出に移り、柴谷議長・会計監査を含めて全員再任され、「交通基本法を土台に策定された交通基本計画更には交通政策白書の実効性ある政策の実現を求めるとして総会宣言案を全体の拍手で承認し、最後に再任された柴谷議長の団結ガンパローで総会を終了した。

2月14日 春闘などの取り組みを議論

第126回拡大地方委員会

第126回拡大地方委員会は2月14日(日)に盛岡市のコミュニケーションギヤラリ1・リリオで開催される。

拡大地方委員会は、1月30日の第189回拡大中央委員会の第2月8日の第33回東日本本部拡大委員会の方針決定を

受け、組織強化・拡大、2016春闘労働条件の改善などの取り組みが議論される。

地方委員は、別記の13人特別委員として支部・地区協・職能別協議会から各1人各分会代表者が参加予定となっている。

【盛岡支部】8人
近藤 信博(盛岡駅連合分会)
伊藤 淳(盛岡運輸区分会)
三浦 市朗(盛岡施設分会)
佐藤 弦悦(一戸地域分会)
中村 弘之(北上駅連合分会)
島山 孝(北上工務分会)
吉田 久一(関運輸分会)
森田 薫(釜石地域分会)
【青森支部】5人
小原 典昭(青森駅連合分会)
関 孝(青森運輸分会)
田村 公治(青森貨物分会)
岩崎 毅(大湊地域分会)
小笠原俊茂(八戸工務分会)

2016春闘勝利

国労東北協議会総決起集会

日時 2016年3月4日(金)
12時00分~15時30分

場所 ホテル法華クラブ仙台

内容
第1部 東北労働講座 12:00~
テーマ 政治情勢と労働組合の課題
講師 海波 雄一弁護士
(東京法律事務所)

第2部 春闘勝利総決起集会 13:30~
※集会終了後デモ行進、
同会場から仙台駅付近迄

一組合員多数の参加を

地本互助会だより

万が一にそなえよう

自分と家族のために

Ⅱ 期末手当加給付制度Ⅱ

互助会の「期末手当加給付制度」は、病気の欠勤で期末手当に期間率が適用となつて減額された組合員の生活保障をするための制度です。

制度発足以来14年を経過し今日まで給付件数は1155件。給付金も1,145万円ほど支払いをさせて頂きました。

給付を受けられた組合員からは「付加給付制度」に加入をしていて本当に良かったと声を大にして喜ばれ、互助会として生活保障の一躍を担うことができました。

是非、この機会に、もう一度身の回りを考え、今制度に加入されませんか？

今回の募集は、2016年4月期加入となります。掛金は、2016年4月から徴収し、給付発生は、今年の年末手当減額分となります。

それ以降の加入時期は、

「給付金」
期間率1日につき、1000円給付。

《互助会加入が条件》
Ⅱ 3月15日迄に手続きをⅡ

毎年四月と十月を加入・増口月間とします。
「掛金」
月額一口 2000円
互助会加入人数を限度とする。

4月期加入・増口案内

期末手当付加給付制度

〈掛金徴収〉
・2016年4月から

〈給付発生〉
・2016年年末手当減額分から

〈期間率調査期間〉
・2016年4月1日~
2016年9月30日

〈問い合わせ先〉 担当・村上真一まで
(毎週・木曜日勤務)

TEL (JR) 033-2276
TEL (NTT) 019-652-4841